

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価（4月8日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	○個々が主体的に学ぶ意欲を高め、希望する進路選択に適う単位制総合学科の趣旨を生かしたカリキュラムを編成する。 ○確かな学力向上に向けて、生徒の学習意欲を高めるために、組織的な授業改善に取り組む。	①主体的な学習につながる教育課程のあり方を検証し、個々のニーズに応じた科目選択や効果的な履修指導を実施する。 ②ICT 機器・外部資源を効果的に活用した組織的な授業改善を積極的に行い、主体的に学ぶ姿勢を高め、基礎学力の充実を図る。	①関係部署と連携し、生徒のニーズにあった科目選択ができるような時間割作成を行い、生徒の進路実現に向けた履修指導を行う。 ②・生徒による授業評価を参考にニーズに合わせた取組みや、生徒が主体的に学ぶための授業づくりを、研修会を通して実践する。 ・学習習慣の形成に向け、スタディーサポートを活用して学習支援につとめ進路選択の幅を広げる	①生徒の希望を適切に受け入れられるような時間割作成につとめたか。また適切な履修指導を進められるよう、丁寧な支援を行ったか。 ②・生徒のニーズに合わせた授業方法や教材の工夫ができたか。また、研修会を通して職員のスキルアップができたか。 ・スタディーサポートの活用により学習習慣の確立や基礎学習の向上につながったか。	①教科・系列と連携し、効率的な講座配置についての検討を進めた。生徒との面談指導を積極的に行い、進路実現に向けた科目選択の支援を行った。 ②スタディーサポートの活用により、家庭学習の推進を図った。ICT 機器を活用した授業実践を参観し、効果的な活用方法を研修した。	①学習指導要領に基づく教育課程が完成したが、生徒のニーズをより一層受け入れられる履修指導に努めていく必要がある。生徒の関心や意欲は個々によって異なるため、より一層丁寧な支援が必要である。 ②さらなる授業改善を目指し、研修会での学びを活かしていく必要がある。ICT 機器の活用能力には教員間で差があるため、その能力に応じた研修内容が必要である。	・基礎学力向上とのバランスを考慮したカリキュラム編成、学習習慣の形成、定着を図る生徒指導を期待する ・常に授業改善が必要である。年2回行う生徒による授業評価を有効に活用している。 ・教員の ICT 機器の活用はすべての教員がレベルアップ出来るように研修の充実をお願いしたい。	① 効率的に科目選択できるように、各教科、系列で講座数を増やす等の工夫をして、生徒たちのニーズに沿った選択指導を可能にした。 ②スタディーサポートを活用して、家庭学習の習慣を定着させるとともに、基礎学力の向上を図った。ICT 機器活用の授業実践を相互に参観して、指導方法の研修を行ったが、個々の能力に応じた研修の必要性を感じた。	① 履修指導の基本的な方針を学校全体で確認して、面談を通して生徒たちの進路希望に適う科目選択を可能にする指導体制を確立する。 ② スタディーサポートの意義を理解させ結果を活用した進路支援を共有していく。ICT 機器活用の授業研究は、職員のニーズに合わせた研修会を実施する。
2	(幼児・児童) 生徒指導・支援	○日常的な生徒指導を組織的に行い、規範意識の醸成及び、個に応じた相談・支援体制のさらなる充実を図る。 ○生徒主体の学校行事や生徒会活動・部活動を推進し、リーダーシップを育成する支援を継続的に行っていく。	①生徒指導の意義や目的を明確化しつつ計画的に実施し指導の姿勢を職員で共有する。 ②学校行事や生徒会活動、部活動において、生徒が主体的に動ける環境を整え、日常の授業やHR活動での指導を通じて、生徒の規範意識の向上を図る。 ③生徒の多様性をふまえた教育相談体制を構築し、支援を必要とする生徒に寄り添った対応を充実させる。	①指導の要点を明確化するとともに、職員全体が日常の生徒指導に取り組めるよう計画・実施する。 ②学校行事や委員会活動、部活動において、生徒一人ひとりが自らの役割を考え、動けるよう工夫する。 ③「かながわ子どもサポートドック」を適切に活用することで生徒の実態を職員間で積極的に共有し保護者との連携によって生徒に寄り添った支援体制を整える。	①あいさつ運動や校内巡視、身だしなみ指導に際して、職員が意義や目的を共有できたか。多くの職員が取り組むことができたか。 ②生徒がそれぞれの場面で自ら動くべき時が分かっていたか。また、生徒の意見は正しく反映されたか。 ③「かながわ子どもサポートドック」を適切に活用し、支援を必要とする生徒に寄り添った対応ができたか。	①職員が意義や目的を共有して、年次で統一した指導をすることができた。年数回のあいさつ運動の機会を捉え、身だしなみにも重点を置くことを生徒に明確に示した。 ②与えられた役割は責任を持って果たす生徒は増えている。 ③「かながわ子どもサポートドック」の活用結果を共有し、生徒に寄り添った支援ができた。SC 及びSSW と連携して、本校の実態に添った手順や日程を工夫した。	①下校時の服装の乱れが昨年度より減少したのは、あいさつ運動での指導の成果と思われる。近隣からの登下校時の苦情があり、社会からの目を意識させる呼びかけを地道に続ける。 ②今後は学校行事等に関し、生徒自身が全体を俯瞰し、役割を考えて主体的に運営できるよう働きかける。 ③「かながわ子どもサポートドック」の実施日程の柔軟な設定を検討する。日常的に職員間での情報共有を図り、状況に応じて寄り添っていく。	・学校行事、委員会活動、部活動を通じて生徒に役割を考えさせ生徒一人ひとりが主体性やリーダーシップを発揮できる機会がある点は評価できる。 ・社会的ルールを知らない、わからない生徒には身近な例を示しながら社会的ルールやマナーを伝えて欲しい。 ・近隣からの苦情がゼロとなるよう引き続き地道な呼びかけをお願いしたい。	①職員が日常の生徒指導の意義等を共有したことで統一した指導をすることができた。 ② 与えられた役割は最後まで果たす生徒は徐々に増加しているが、自ら考えて行動する生徒はまだまだ少数である。 ③「かながわ子どもサポートドック」の活用結果を共有し SC 及びSSW と連携して、生徒に寄り添う支援を行った。	① あいさつ運動の成果が表れはじめている。さらなる地道な声掛けを通して社会性を高める指導を継続する。 ②生徒自身が積極的に役割等を考えて企画・運営できるような仕掛けを計画する。 ③「かながわ子どもサポートドック」を教員間で共有して、SC 及びSSW と連携した支援体制をさらに充実させる。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価（4月8日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	○ガイダンスの授業を軸としたキャリア教育のさらなる充実を図り、主体的な進路選択の支援を実現する。 ○学校外の教育力を活用して「課題解決能力」や「コミュニケーション能力」を育み、キャリア発達を促す。	①ガイダンスの授業で、個性を尊重したキャリア教育を行い、職業観を養うと共に、進路実現の支援を行う。 ②総合学科の強みを活かし、外部機関との連携を通して、授業の充実を図り、主体的に学ぶ態度や能力の向上を図る。	①ガイダンスの授業において、自己実現の機会の充実を図り、課題研究の取り組みと進路指導を連携させ、希望進路の実現につなげる。 ②職業人ガイダンス、職業人インタビュー、フロンティア学習、課題研究等で、外部機関での体験を行い、生徒の学ぶ意識・探究心の向上を目指す。	①生徒に興味・関心を持てる内容であったか。それにより、生徒の人生観や職業観の形成に効果があり、生徒の希望する進路支援ができたか。 ②課題研究等の取り組みで適切な指導ができたか。また、外部機関との連携で意義ある体験をし、主体的に学ぶことができたか。	①「産業社会と人間」や進路ガイダンスを通じて、生徒の人生観や職業観の形成を養うことができた。進路説明会を年次ごとに複数回実施した。 ④研修旅行やガイダンスで外部機関と連携し、体験や主体的な探究活動をする生徒が7割以上できた。夏季連携講座等、学校外の学びについて生徒に周知し、講座の受講につなげた。	①自己実現に向けた意欲が湧かない生徒への働きかけの仕方を考えて行く必要がある。興味関心がある分野が進路希望の実現に結びつかない生徒へのアプローチの仕方を模索したい。 ②地域研究やプレ課題研究が交差する時期に戸惑いが出ないよう年間計画を再考する。級学校との連携を強め、学校外の学びの場を増やす。	・「産業社会と人間」や進路ガイダンスの継続的な改善が、本校のキャリア教育の質向上につながっている点は評価できる。 ・時代や社会の変化を見据え、最先端な業界・企業やその分野で活躍するプロフェッショナルとの接点を増やし、引き続き学校外での学びを拡充して欲しい。	①授業や進路ガイダンスを通して職業観の滋養は図ったが、進路に対する意識が低い生徒への効果的なアプローチが課題に残った。 ②外部機関と連携して夏季連携講座や地域研究や課題研究ができた。時代の変化等を見据えて学校外での学びの場を拡大し進路実現の可能性を広げたい。	①多様化する社会や生徒を見据えて「産業社会と人間」のプログラムの見直しも念頭に入れて検討していく。 ②外部の教育機関等と連携して、学校外での学びを強化して進路支援するとともに、ガイダンスの充実を図る。
4	地域等との協働	○学校運営協議会を通して、地域と連携・協働して教育活動の充実を図る。 ○積極的に本校の教育活動を発信し、社会に開かれた学校づくりに引き続き取り組む。 ○防災意識を高め、本校のSDGs(防災)の体制づくりに取り組む。	①学校運営協議会の評価をもとに課題や改善方策を模索するなど外部との協働による教育活動の充実を図る。 ②本校の教育活動をホームページ等でリアルタイムに更新し情報発信することで開かれた学校づくりを推進する。 ③本校の防災体制を整備し、定期的な防災訓練を通じて生徒の防災意識を高める。	①学校運営協議会で確認された成果を継承し課題の整理と課題解決を図る。 ②学校説明会や中学校訪問文化祭やオープンスクール等を通じて学校の魅力を中学生や地域の方々へ発信する。 ③防災計画を具体化し、地域も含めた防災訓練を実施し生徒の防災意識を高める。	①教育活動の成果を確認し継続できているか。また課題の整理と解決が図られているか。 ②学校行事等での来校数は増加しているか。また来校時のアンケート結果を活かしながら実施できたか。ホームページの更新と更新回数の状況確認。 ③状況に応じた防災訓練が計画通りに実施できたか。また、地域との連携を図ることができたか。	①学校運営協議会委員から様々な提言をいただき、教育活動の成果を再確認した。 ②学校説明会および中学校訪問、中学校PTAの来校、文化祭やオープンスクールなど10数回の広報活動を行い、本校の活動や状況を発信することができた。 ③年に2回の地震および津波に備えた防災訓練を実施し、地域の保育園との合同訓練や聖星学園の避難訓練を実施することができた。	①引き続き、学校運営協議会の評価をもとに課題や改善方法を模索し協働による教育活動の充実を図る。 ②定員を超える応募があるなど中学生や保護者のニーズには応えることができています。引き続き開かれた学校づくりをしています。 ③あらゆる災害および状況に対応可能となるように準備を重ね、防災の意識を高めていく必要がある。	・秋のオープンスクールには多くの地域の方が参加し、教職員の工夫も随所に見られた。こうした地道な取り組みが、応募増に着実につながっている。また、SNSで活動の様子を発信していることは、生徒の主体性を育むだけでなく、開かれた学校づくりや学校の魅力向上にもつながっている。 ・防災訓練を地域全体で行うことで、共助の意識が高まると思う。	①学校運営協議会委員から貴重な意見を頂いたが、開催日の設定に課題が残った。 ②学校説明会や中学校訪問、ホームページ更新等を実施して、本校の教育活動の発信を充実させた。 ③防災訓練を地域施設と合同で実施し、生徒や職員の意識高揚を図った。また、あらゆる状況を想定した訓練を実施して防災意識を高めさせたい。	①運営委員の参加人数を増やし、教育活動の充実を図りたい。 ②学校説明会のさらなる充実とインスタグラム等を活用して教育活動を発信し、学校理解を推進し地域に開かれた学校づくりを進める。 ③様々な状況を想定した避難訓練を実施して防災意識高揚を図る。
5	学校管理・学校運営	○安全、安心な校内環境を維持し事故防止に努めて、信頼される学校づくりを進める。 ○ワークライフバランスを念頭に置き、校務の効率化を図ると共に生徒と向き合う時間を確保する。	①計画的に校内研修を実施し、法令遵守の意識を高め、事故および不祥事のない校内環境を整える。 ②業務内容の見直しの検討やTeams等のツールを活用して業務のスリム化を推進する。	①適切な不祥事ゼロプログラムを定め、定期的に研修会を実施し、全職員の事故防止に対する啓発活動を行う。 ②チャネルの活用等による打合せ時間の短縮化を推進する。	①事故・不祥事を防ぐために定期的に研修会を実施し、全職員の事故防止の意識を向上させることができたか。 ②時間外在校時間の集計結果が昨年度より減少したか。	①年間を通じて不祥事ゼロプログラムに沿って研修会を実施し、法令順守の意識を高め事故・不祥事の防止をすることができた。 ②グループや年次のチャネルを設定したが活用状況はバラツキがあった。	①日頃から情報共有を密にしてコミュニケーションを図ることで、引き続き職員の意識向上に努めていく。 ②昨年より年間時間外在校時間が数時間減少した。引き続き働き方の意識改善を進めていく。	・年間の時間外在校時間が減少し、ワークライフバランスを意識した学校運営が進められている点は評価できる。また、組織的なツールの有効活用により、校務の効率化を図っていただきたい。	①状況に応じたタイムリーな研修を実施して法令順守の意識の高揚を図った。 ②電話案内等のツールを使う等、できることから「働き方改革」の意識改革を進めた。	①気軽にコミュニケーションできる雰囲気づくりを心掛ける。 ②職員の声を聴きながら校務の効率化を図る。